

IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第39回会合 発言録

2023年9月11日

【加藤】 皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。第39回目の国内IGF活動活発化チームの会議をスタートしたいと思います。

今日はお忙しい中、岡崎様御参加で、最初10分ほどお話しいただけるということですので、早速、岡崎様にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【岡崎】 はい。総務省の岡崎でございます。よろしくお願いいたします。

細かい話ではいろいろと、だんだん詰め段階に入ってきていて、いろいろあるんですけども、あまり大きな部分でのアップデートというのは今日はお話しできるところはないんですけども、今ちょっとチャット欄に貼りましたとおり、ハイレベルの参加者につきまして、これが全員ではないんですけども、ホームページに一部公開されております。私自身もちょっと驚いたのは、デジタル庁の河野大臣の名前とお写真が載っているというのは少し驚きました。総務大臣も当然参加はするんですけども、今日報道で出ておりましたけれども、近々内閣改造があるかもしれないというところで、まだここに確定的な名前と写真は総務省に関しては載せていないというところでございます。

あとは、この全体の中で申しますと、知る限りの情報で申し上げますと、一番右上のアーダーン前首相ですね。ニュージーランドのアーダーン前首相は今のところ現地参加がかなわないと聞いています。なので、オンラインで御参加いただく方向で聞いております。あとは、国連のグテーレス事務総長につきましてもまだ調整が整っていないので、御参加いただくかどうかはまだ確定はしていないというのが実際のところでございます。

あとは特段、この場で共有するアップデートは、すみません、残念ながらなくて、申し訳ないので、御質問なり、こういう話聞いたんだけど、どうなのというようなところがあれば、この場で私限りでお答えできる範囲でお答えしたいと思いますので、何か御質問などいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

【加藤】 どうも、岡崎さん、ありがとうございます。お忙しい中、御出席いただきまして、感謝申し上げます。

御質問、御意見ございますでしょうか。せっかくの機会ですので、細かい点はいろいろあるとおっしゃったので、ぜひ細かい点も含めてあれば。本田さん、どうぞ。

【本田】 お世話になります。個人参加の本田です。

前回も同じことを申したかもしれませんが、IGF京都を紹介する総務省のページですね。日本語と英語と両方作られているんですが、プログラム欄、会議・展示、おもてなしという項目があって、coming soonと書いてあるんですが、これはいつ頃整うんでしょうかね。整うんでしょうかねと言っても、御担当は別の方かもしれませんが。

【岡崎】 はい。すみません。申し訳ないですが、直接担当していないので分かりかねるんですけども、あまりそこが滞っているというふうには聞いてはおりませんで、展示のほうも、展示会場が埋まるだけの申込みは十分にあって、それでもう既に決まった方々には通知が行って、御準備されているとお伺いしていますし、京都府、京都市とも広報含めて話をさせていただきながら進めているので、ただ、ホームページまで手が回っていないかもしれないので、ホームページがcoming soonのまま置かれているというところにつきましては、担当チームのほうに共有させていただいて、早く御覧いただけるようにしたいと思います。ありがとうございます。

【本田】 よろしくお願ひします。

【加藤】 山崎さん、お願ひします。

【山崎】 登壇者向けの練習セッションみたいなのが、Zoomの会議だと思うんですけども、毎年、事前にあると思うんですが、それがいつかという案内がまだないという質問をいただいている、もしそれが決まっていれば、御存じだったりしたら教えていただければと思うんです。多分国連からまだ、決まっていないうんでは思うんですけども、御存じでしたら教えてください。

【岡崎】 すみません。私、存じ上げてないです。そういうふうな練習セッションがあるということ自体、ここで初めてお伺いしたので。個別に、モデレーターの方含めて、各セッションの方、ハイレベル含めて、御連絡を国連なりオーガナイザーからされてはいるので、それは、すみません、一般のオーガナイザーがされるワークショップとかオープンフォーラムとか、そちら側のお話でしょうか。それとも、ハイレベルなどの話でしょうか。どちらでしょうか。

【山崎】 ハイレベルについては私は全然関わりを持ちようがありませんので、一般のワークショップのオーガナイザーさんの話です。

【岡崎】 なるほど。分かりました。じゃあ、あしたまた国連との打合せがあるので、何かそういう練習というか、リハーサルセッション、要は機材とかの確認なんだと思うんですけど、というところの疑問があったんですけど、どうなのと聞いておきます。

【山崎】 疑問というか、チュートリアルセッションをいつ開くんですかと言っていただければ、毎年やっているはずなので、向こうは御存じだと思います。

【岡崎】 では、かしこまりました。聞いておきます。

【山崎】 よろしく申し上げます。

【岡崎】 結果の共有をさせていただきます。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがですか。田中先生、お願いします。

【田中】 すみません。京都情報大学院大学の田中と申します。

日本語のセッションないしは日本語通訳があるようなセッションについて、その有無を確認するようなことはできるだろうかという質問が学内でございまして、もしその目安となる情報がどこかにありましたら御教示いただけますでしょうか。

【岡崎】 まず、スケジュールを御覧いただいたときにメインホールと書いてあるところですね、ハイレベルセッションですとかオープニングセレモニーとかをやる。そちらの大きなセッションは全部、日本語の同時通訳が入ります。

【田中】 ありがとうございます。

【岡崎】 あともう一か所、どこだったかな。全面同通が入る部屋が2つあって、1つがメインホールで、もう一個どこだったかな。すみません。少なくともメインホールのハイレベルのセッションやスペシャルセッションみたいなところは全部入ります。ほかのところは、同通が入るところはちょっと確認して、また、すみません、共有させていただきます。

【田中】 恐れ入りますが、よろしくお願いいたします。

【岡崎】 はい。ちなみに、メインホールというのは、今公表されているエクセルのスケジュール表の一番上の段にあるやつです。そこは全面同通が入ります。

【加藤】 その関連で、ちょっと確認までなんですけれども、例えばタウンホールとかオープンフォーラムとか、ああいう割と碎けた感じのセッションも、英語の字幕は出る構造にはなっているのでしょうか。

【岡崎】 はい。なっているはずです。

【加藤】 そうすると、全てのセッションが英語の字幕は見られるようになるということですね。

【岡崎】 はい。

【加藤】 ありがとうございます。

今井さん、よろしくお願いいたします。

【今井】 ありがとうございます。京都情報大学院大学の今井です。

2日目の18時半からワークショップやらさせていただくんですけれども、登壇者全員日本人で、日本語がメインで、同時通訳を入れる入れないの話がありましたので、今ちょっと手挙げさせていただいたんですけれども、日本語を英語に換えるセッションというのはスケジュール表のほうにコメントか何か出るのでしょうか。出るのであれば、そういうセッションですという申請はこちらからしなければならぬのでしょうか。

【岡崎】 基本、ベースは英語で、日本語で、もし英語に対して転換、同時通訳をされたいという場合は、まず、会場に同時通訳の設備がある部屋がたくさんあって、必ずしも全部そのとき使うわけではないので。ただ、セッションによっては、同通をふだんは入れていないけど、そのセッションのために自分たちで同時通訳の人を連れてきて同時通訳を入れる—同通であればですね。同時通訳を入れるということをやっているところもありますので、それは必ずしも日本語とということではなくて、スペイン語だとかフランス語だとか、そういうところでやっていらっしゃる方はいるので、現在アサインされているお部屋、日時。2日目というのはDay 2のことですかね。10日かと思うんですけど。

【今井】 9日。

【岡崎】 9日。じゃあ、2日目。Day 1、2日目ですね。9日ですね。お部屋が何番が割り当てられていて、何時からで、その部屋に同時通訳の設備があるかないかというところを御確認いただいて、同時通訳を入れるのであれば、恐らく会場なり国連なりと御相談いただくという形になるかと思います。もちろん逐次通訳を入れるという形でも構いませんし。

【今井】 Zoomに同時通訳の機能が備わっていると思うんですけども、そういう認識でよろしいでしょうか。

【岡崎】 Zoomに同時通訳の機能、同時配信の際にですか。

【今井】 同時通訳というか、同時通訳の人を入れて、その人がしゃべるチャンネルを視聴する人は、英語を視聴する人は同時通訳をする人のチャンネルをアサインして英語で聞いてもらうという意味の同時通訳の機能なんですけれども、ちょっと伝わっていないかな。

【岡崎】 すみません。少なくとも私、Zoomにそういう形の機能があるということを、すみません、存じ上げていなくて、使ったこともないので、すみません、私、何とも答えられないので、言語上何かをされたい場合は、会場なり、国連のセッションを見ているところなり、もしくは総務省の窓口のほうに御連絡をいただければ、どの部屋で通訳が使えて、どこか通訳を入れる場合の手続などは御案内できるかと思いますので。ちょっと私、Zoomでどうするかということまで、すみません、その辺のロジ面は担当外なので、分からなくて、申し訳ないですけど。

【今井】 総務省データ通信課の望月様とちょっとやり取りをさせていただいているんですけども、望月さんに今おっしゃったところのことなんかを確認いただく、自分で確認すればいいですか。

【岡崎】 望月に、通訳とかのロジ担当を教えると言え、望月とはふだんからやり取りしているので、その担当、望月から連絡先をお渡しできると思うので、それで直接御連絡いただいて、日時とか、この部屋でこのセッションをやるときにこういうことをしたいという御要望をいただければ、何ができるか、どうすればいいかということはアドバイスできると思います。

【今井】 今もちょっと議事録に書いていただいているんですけども、同時通訳を入れる場合の正式な手続というのはあるんでしょうか。

【岡崎】 正式な手続があるかは分からないんですけども、まず入場しなければいけないということと、その部屋に同通の設備がある場合、それを起動させなければいけないので、それが何がしかの手続なのか、スイッチ入れるだけなのか、ちょっと私、そこを担当していないので何ともお答えはできません。ただ、別の、メインホールじゃないところでもそういうことをしていらっしゃる場所はあるというのは聞いております。

【今井】 どこに確認するのが一番確実でしょう。

【岡崎】 まずは、ぱっと私、ここに連絡先を持っていないんですけど、望月にそういう今おっしゃっていただいたような、通訳をつけたいと、日本語メインでやるから、日英の通訳をつけたいんだけど、どうしたらいいかということのを誰に聞けばいいかとおっしゃっていただくと、そのチームの中の通訳の手配などとか部屋の手配をしている担当につながることができると思いますので、そこでお尋ねいただくと一番確実かと思います。必要があれば京都国際会館のほうに聞きますし、必要があれば国連に聞きますしという形になろうかと思えます。

【今井】 分かりました。それで、スケジュールが決まっているので、私たちが使う部屋がもう決まっていると思うんですけども、その部屋の設備、同時通訳の設備ですか、そういうのも同じように聞けばいいということですね。

【岡崎】 はい。部屋ごとにどういう設備があるかというのは担当は認識しているので、大丈夫です。

【今井】 分かりました。ありがとうございます。

【望月】 すみません、今井先生、また直接やらせてください。望月です。

【今井】 望月さん、いらっしゃる？

【望月】 はい、望月です。

【加藤】 望月さん、ありがとうございます。

【今井】 電話いたします。

【望月】 はい。

【加藤】 今、御質問等ございますか。岡崎さんがもうお約束の10分を過ぎているのですけれども、よろしいですか。

では、岡崎さん、もし先ほどの日本語の通訳がつく部屋が分かれば、メールでも入れておいていただくと、このメーリングリストに入れていただくと大変ありがたいと。

【岡崎】 かしこまりました。確認しておきます。

【加藤】 じゃあ、本当にお忙しい中、岡崎様、ありがとうございました。

【岡崎】 こちらこそ、ありがとうございました。

【加藤】 引き続き、よろしくお願い申し上げます。

【岡崎】 お願いいたします。失礼いたします。

【加藤】 それでは、次のアジェンダ項目に移ります。MAGの報告ということで、河内さん、お願いします。

【河内】 先週MAGの会議がありまして、今回すごく短くて、30分ちょっとだったんですけれども、事務局からは、今、登録者数は3,000人を超したという報告がありました。それから、MAGが主に企画等しているメインセッション、今年は6つのテーマで行うことになっていますけれども、それぞれのセッションの責任者から、それぞれスピーカーとかの選定の進捗状況の報告がありました。また、決まっていないところは、いいスピーカーがいたら推薦してほしいというような依頼がありました。今回のMAGについては、主にその内容の話で終わりました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

河内さんのほうに何か質問ございますか。山崎さん、お願いします。

【山崎】 その6つのメインセッションの中に日本からのスピーカーはいらっしゃったりするのでしょうか。

【河内】 私が見た範囲、ちゃんと認識した範囲では、いないと思います。ただ、メインセッションですね。NRIのほうは、AIだったかな、セキュリティーだったか、スピーカー

がいなくて、日本の人に、日本に誰かいないか聞いてみてはどうかとかいう話がありましたけれども、MAGのメインセッションのほうは、私が認識している限りなので、全てちゃんとチェックできているわけではないんですけども、私が認識した範囲では、日本人の名前があった記憶はないです。すみません。

【加藤】 この6つのセッションということですから、ある程度エキスパートとして話をしていただける方というイメージですよ。

【河内】 そうですね、はい。

【加藤】 もし御推薦があれば大至急、河内さん経由で言っていただく。

【河内】 そうですね、はい。

【加藤】 NRIも同じで、この前、私、NRIのAIとエマージングテクノロジー、募集中ですというのを書かせていただいたんですが、NRI関係の3つのセッションもまだ完全にはスピーカーは閉じていなかったと思うので、御推薦があればよろしくお願いします。

ほか御質問ありますでしょうか。Rafik。

【Rafik】 Hi, Kato-san. Thanks. I just had a question about the high-level track, and I wanted to understand how the selection for the panelist was made if it is possible.

【河内】 Actually it's not by, I don't know about that, maybe we should ask the MIC. Has Mr. Okazaki already left? I don't know.

【加藤】 もし望月さんいらっしゃるのであれば、総務省の方、このハイレベルのパネリストというのはどういうふうを選んでいいのか、何か御存じのことありますか。

【望月】 I'm so sorry to say I don't know how to select these panelists. I'm so sorry. We have to ask Okazaki-san, Owa-san, members of the team. Maybe someone can explain how to select these panelists.

【Rafik】 No problem. Okay.

【加藤】 いいですか、Rafikさん。

【Rafik】 いいですよ。It's Okay. I understood that it's…….

【加藤】 I assume that the UN Secretary, you know, made internal decisions and contacting high-level, you know, officials relevant for the event got a confirmation and created the list. That's my assumption.

【Rafik】 No problem. Thanks for the answer.

【加藤】 ほか、河内さんへの御質問よろしいでしょうか。それじゃ、もし後でまた出てくれば、河内さんはいらっしゃると思うので、後でも御質問お願いします。

それでは、次のアジェンダ項目に移ります。日本IGFタスクフォースからの報告ということですが、これは山崎さんが事務局で、今日、前村さんはいらっしゃらないですよ。

【山崎】 ちょっと今日は出席できなさそうです。

【加藤】 そうですね。APNICが今京都であるということで、それでお忙しい方は多いと思うんですが、もし山崎さんからアップデートがあれば。後で必要なら私も補足します。

【山崎】 山崎から報告しますが、ここに書いてある以上のことはありませんで、サブスタンスワーキンググループ、要は中身についてのワーキンググループを開催しようとしていて、そこでセッションなりサイドイベントなり、認識合わせをしたいということになっています。

以上です。

【加藤】 逆に言いますと、前回のこの活発化チームの会議以降もタスクフォースの運営委員会、会議自身がまだ開催されていなくて、タスクフォースから5つの団体以外にも声をかけて、いろいろ参加を呼びかけるということは議論はされたんですが、実際そういうアクションも取られていないので、そういう意味では、今ちょっとタスクフォースは、あまりこのところ動いていなかった。ここに書いていただいているサブスタンスワーキンググループというのは、なるべく日本からいろいろ、今度の京都に向けてセッションを提案しようということでお声がけをしたところの結果を前回確認し、必要であれば今度そのセッションやサイドイベントに関して認識合わせをするということですが、ちょっとその日程もまだ今決まっていないということで、あまり動いていないというのが今のタスクフォースの現状です。

何か御質問ございますか。

もしなければ、次は、さっきもちょっと話の出たNRIについて、これは河内さん、山崎さん、何かございますか。

【山崎】 これもここに書いてあることぐらいしかないと認識しているんですけども、次回NRIの会合を今月の最終週、25日の週に開催しようとしていて、今、日程を調整しているところです。話し合う内容は、ここに書いてあるとおり、NRIのメインセッション。先ほどのメインセッションとは違います。NRIとしてのメインセッションとNRIのコーディネーションセッション。NRIメインセッションは3つあって、コーディネーションセッションは1つですが、計.....。

【加藤】 すみません、逆ですね。メインセッションが1つで。

【山崎】 ごめんなさい。メインが1つで、コーディネーションが3つでした。すみません。計4つのセッションの最終確認をするということになっています。それぐらいだと思うんです。内容は、スピーカーとか、これでいいかという打診がメーリングリストで飛び交ったりしていると思います。そんなところだと。

【加藤】 多分そのメーリングリストは御覧になっていただいていると思うんですが、特にコーディネーションセッション3つに関してはまだスピーカーが最終決定していないものが多いので、特に私、AIとエマージングテクノロジーのところをフォローしているんですが、まだスピーカー募集中みたいな段階だと思います。最後のチャンスはあると。いろいろ名前挙がってきていますが、まだ最終決定はしていないという段階です。

これ、山崎さん、河内さん御担当のコーディネーションセッションも大体同じような状況ですよ。

【山崎】 はい。私、山崎はインクルージョンのセッションのほうを見ているんですけども、同様の感じですね。

【加藤】 エキスパートということでこのセッションに参加する場合、例えばアジアからも1人とか、そういう形で提案ができて、その中に日本が入ればいいなというニュアンスはありますが、アジア・パシフィックの場合、結構いろんな国がたくさんあるので、まだそれが最終的には決まっていないということです。

NRIについて御質問ございますでしょうか。

もしなければ、次の項目に移らせていただきたいと思います。先週木曜日、金曜日、皆様の御協力で行った今年の（日本インターネットガバナンスフォーラム2023）……。

【山崎】 本田さんから手が挙がっています。

【加藤】 ごめんなさい。本田さん、どうぞ。

【本田】 すみません。タスクフォースのところでちょっと手を挙げそびれたんですけど、現状で、こちらの加入メンバーというか、私たちの活発化チームのほうからインプットが必要なものというのではないということですか。何か意見を求められるとか、そういうことではないということですかね。

【加藤】 今、タスクフォースに対して我々がコメントすることは求められていません。

【本田】 こちらからのアクションはなくて、今回はサブスタンスのものの日程調整と。あと、その次の何か、本番前のものというのにはないということですかね、もうアクションは。

【加藤】 ええ。今、特に聞いていないですが、山崎さん、何か想像できますか。

【山崎】 ちょっと、ないんじゃないかという推測しかできないですね。本当はいろいろ動かなきゃいけないんでしょうけど。ですから、もともとは、創設メンバー以外にも会員を増やすべく働きかけるということだったんですが、そっちのほうが進んでいなくて、それはちょっとIGF後になってしまいそうかなというところじゃないかと思います。

【本田】 そうすると、今後のタスクフォースの発展性というか、どうしていくのかということも含めて、IGF後にまた話があるんじゃないかという見通しですね。

【山崎】 と思いますね。あとは、なるべく終わって時間がたたないうちにやらないと、皆さん熱意が薄れるんじゃないかという心配をちょっと私は個人的にはしています。

【本田】 分かりました。

【加藤】 その点に関して、後で私からも御提案というか、皆さんに考えていただきたいと思っているんですけども、もともと日本IGFタスクフォースは、京都会議以降も何か継続してIGFを推進する母体にならないかという前提でスタートしたという理解なんですけれども、一部、IGFタスクフォースの運営委員会の中で、京都以降どうしようかという話に

少し触れたことはあったんですが、まだその議論が真剣に行われているという状況ではないので、そうすると、この我々の活発化チームも、10月以降、タスクフォースの動きを見ながら今後の方向を決めようということを含めて今まで議論してきたんですけども、その辺も、10月以降どうしようかということが今課題になっていると思います。このアジェンダアイテムが終わった段階で少しその話を、もう少し皆さんと一緒に議論させていただきたいと思っています。それで本田さん、お答えになっておりますでしょうか。

【本田】 分かりました。この後またということであれば、それで結構です。

【加藤】 それでは、先週、大変お疲れさまでした。山崎様はじめ、ここにいらっしゃる多くの方にサポートしていただいて、国内の事前会合、無事終了したわけですけども、この機会に、プログラム委員会として参加された方を中心に、今回の感想といいますか、何か、一言で結構ですのでコメントいただければと思いますが、いかがでしょうか。まず、プログラム委員会に参加されていた堀田さん、それから高松さん、前村さんが残念ながら今日御欠席なので、関係者としては山崎さん、河内さんになりますけれども、山崎さんからいかがでしょうか。

【山崎】 私はどっちかというよりプログラム委員というよりは裏方といいますか、事務局といいますか、配信係といいますかで走り回っているんで、あまりちゃんと全体を見通せてはいないんですけども、最初の意図どおり、IGF京都2023に応募して選定されたセッションのうちから、合計6個ですか、7個ですかね。

【加藤】 合計6個ですね。

【山崎】 セッションとしては6個。ただ、元のIGFのセッションとしては8個になりますかね。

【加藤】 そうですね、一緒にしたのは。

【山崎】 登山さんが2つ、江崎さんが2つなので。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 8個になりますかね。8セッションの前振りというか、することができたのは非常によかったと思います。いろいろな分野にまたがっていて、我々のほうがよく知らない分野だったりすることもありましたし、そういう話を聞いたのは非常に有意義だったのでは

ないかなと思います。これをIGF京都本番につなげていくことができれば、よりすばらしいかなと思った次第です。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。本当に山崎さん、JPNICさんなしにはこれ開催できなかったのも、ありがとうございます。私が言うのもなんですけども、本当にありがとうございます。

河内さん、いらっしゃれば、何かコメントありますか。

【河内】 私も日本国内でやるこのイベント、参加するのは3回目なんですけれども、いつになく、とても中身が充実していたというか、いろいろなトピックがあったと思うんですけど、専門的な内容を日本語でちゃんと説明していただくことができ、とてもよかったです。やはりなかなか、英語で聞くと、その専門の範囲をよく知っていればそんなに問題ないのかもしれないですけども、専門的なところは難しいときもあるので、本当にいい予習になったかなと思っていて、今回、日本の関係者がオーガナイズするセッションの方々に、これに登壇してほしいというふうに皆さんにいろいろお声がけして、山崎さんがお骨折りいただいて、たくさんの方をお願いした結果、御都合が合わないとかで駄目だった方もたくさんいらっしゃったわけで、そういう方々にも何か機会があったらまたこういうふうに説明していただくと、とてもいいかなと。もちろんトピックは、今回6つのセッション、8つのセッションなのかな。だけでしたけれども、本当に、本番は350以上のセッションがあるわけで、テーマ的にもものすごくたくさん出てくるわけで、その本当の一部についてお話を聞いたという感じなので、本番もいろいろな話が聞けたらいいなと思いました。

感想、以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

最後に私からも一言コメントなんですけれども、今お二人がお話しされたとおり、今までになく、非常に中身が分かりやすいといえますか、そういう2日間のセッションだったなと思います。項目としては6つの項目だったわけなんですけれども、例えばJPCERTの登山さんが最初に、JPCERTというか、CERTって御存じですか。私、半分手挙げかけたら、周り見たら誰も手挙げないので、これはまずいなと思ったら、きちっとCERTの今の体制とかやっていらっしゃることとか御説明いただいたんです。考えてみると、IGFは、今度京都でもそうなんですけれども、例えばこのCERTのセッションがありますとか、それから後で、2日目のJIC

Aの山中先生が、アフリカの開発や何かに携わっていらっしゃる方ですけども、本番では海外の方がいっぱい参加されて、いろんな内容をお話しされるわけですけども、今回は山中先生がお一人で、こんなことが問題になっていて、本番ではこんなことが議論されますということを解説いただいたんです。若干そういう意味では講義調にはなるけれども、全貌をきちっと日本語でお話しいただいたというのは、これは非常に貴重な機会で、非常にその問題の全貌がよく分かった。同じように、2日目の最初のAIのセッションは、それぞれの方が本当にハイレベルで議論されたら、もう本当に中身の濃い議論になるんですが、それにも増して、全体の今のAIに関わる問題をうまく整理していただいたというので、論点が非常に分かりやすかったなと思いました。今回こういうことを経験して、できれば日本でこういう形のIGF活動というのをもう少しやると、いろんな方がもう少し、IGFでやっている中身が親近感を持って聞けるのかなということを強く感じました。今後、この活発化チームとか、IGFに関係する議論をどうやってやっていくかということをそろそろ考える時期になっているんですけども、これは1つ大きな経験になったなと思っています。以上です。

もしここにいらっしゃる方で、やはり先週聞いていただいて、何か感想をいただく方があれば、少しそれに時間を費やしたいと思いますが、いかがでしょうか。あとは特にございませんか。

じゃあ、アンケートの結果等、また何か.....。

【山崎】 河内さんが手を挙げていらっしゃいます。

【加藤】 失礼しました。どなたか、手を挙げていらっしゃる方。

【河内】 すみません、私なので、ちょっと別の方の感想じゃないんですけども、今回うちの組織から私と堤ともう一人と参加させていただいて、ちょっと簡単な報告書、報告をまとめようと思っておりまして、またちょっと後で山崎さんと御相談させていただければと思っていますので、よろしくお願ひします。

【加藤】 ありがとうございます、河内さん、そのことをメンションしていただいて。CFIECという団体で、河内さん以下3人今回参加していただいて、河内さんには司会の一部をやっていただいたり、それから、分担して今、今回の2日間の報告書を作っていただいています。そのドラフトをお見せして、山崎さん、皆さんと御相談して、まず日本語で、さらに英語で、このIGFの日本の活動を紹介できるようにしたいと思っています。

【河内】 すみません、山崎さん、そこにあんまり、この活動はまだスタートしたばかりで、ちゃんと乗っていないで、すみません。

【加藤】 あの方、よろしいでしょうか。もしないようであれば、次の議題に移りたいと思います。

【山崎】 すみません、山崎ですけども、ちょっとアンケート集計結果の紹介を簡単に。

【加藤】 もう出ているんですか。

【山崎】 はい、はい。

【加藤】 ありがとうございます。それでは、ぜひお願いします。

【山崎】 その前に、参加者数はここに書いてあるとおりなので、なかなか、実際見ても、常時六、七十の方がいらっしゃったということになります。

アンケートは、ちょっと母数が少ないので、どれぐらい参考になるかというのはあるんですけども、90名近く参加されて、まだ18件ということなので、かなり少ないのは少ないですが、例えば所属されているステークホルダー別の分布ですけど、プライベートセクター、民間企業が一番多い以外は、結構いい感じに分散しているということになります。

このイベントを知ったきっかけは、この活発化チームのメーリングリストが一番多くて、その次は人から聞いてということなんです。

初参加の人のほうが多いという結果になりました。

このアンケートを書いてくださった方の中では、Day 2にオンライン参加した人が一番多いということになります。

印象、開催形態とかですけども、これに関してはいろいろ御意見がありました。お昼を避けてほしかったというのは、ちょっと登壇者の都合でお昼にかかってしまったんですけども、今回はこの辺も考慮できればと思います。

登壇する方は少ないというか、検討中の方だけです。参加する方は結構多いと。多いというか、検討中も入れれば結構多いということでしょうか。

報告会をやったら参加するという方は結構多かったように思います。

あとは細かい、とは限らないですけども、感想を書いていただいています。この辺はアジェンダ案にリンクしてありますので、後でゆっくり御覧いただければと思います。

私からは以上です。

【加藤】 ありがとうございます。この集計までしていただいて、いつもありがとうございます。今のコメント、結構真面目に書いていただいたんですね。初めて聞かれた方は、多分全体から見ると、90名前後の方々のうち、初参加の人はそれほど、この統計ほどは多くないのかもしれないですが、初参加の人がそれだけ興味を持って書いていただいたというのはよかったかなと。そうですね。3分の2、18人のうち12人は初参加だったということで、そういう方はポジティブな印象を持ってコメントされたのかなと思います。ありがとうございます。

まだアンケートはもう少し増える可能性がありますね。

【山崎】 はい。まだ回答可能ですが、週末にかかる前にメールでお知らせして、まだ18人ですので、50人ぐらいは回答していただきたいなという気はいたしますが。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 これを、今参加の方でアンケート、まだ記入なさっていない方は、ぜひ御記入いただければと。

【加藤】 どうもありがとうございました。

何か御質問ありますか。山崎さんへの御質問とか。それじゃあ……。

【山崎】 本田さんから手が挙がっています。

【加藤】 本田さん、すみません。

【本田】 すみません。これといった質問ではないですけども、先ほどのアンケートの中でもちらっと見えましたけど、日本の児童ポルノ対策というところについては、日本独自で結構、独自というか、日本が国際的に要求されて取り組んできた内容でもあるので、非常に興味深い内容というか、俯瞰できるような内容だったのかなと思いますし、全体的に、最初なかなか件数がまとまらなかったかもしれないんですけど、2日間に分けて複数のセッ

ションができたので非常によかったかなと、まとまった内容でよかったかなと思います。IGF後の報告会ももしかしたらまた企画されるかもしれませんが、なるべく、もう少し日程余裕持って、前もって決められて、今回INTERNET Watchとか少し出ていましたけれども、恐らくJPNICさんの広報ルートでニュースリリースしていただいたのかなと思いますけど、なるべく広く、新しい新参者の方が参加していただけるような工夫をできたらなと思っています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか何かコメント等ございますか。

もしなければ、ちょっと次のTodo確認の前に1つ私から今日御提案をさせていただきたいと思っています。それは、この活発化チームのこれからに関してなんですけれども、活発化チームは、名前のおり、2023年のIGFに向けてということで今まで、日本でのIGF活動を活発化するというのが主眼で推進してきたわけですけれども、そろそろ京都会議の後どうするかということを議論し始めたほうがいいのではないかなと思っています。先ほども少し触れましたように、日本IGFタスクフォースが場合によっては、その辺、いい関係があって、お互いうまく連合しながら、10月以降、新しいIGFの日本での形を考えるという可能性もあるかと思うんですけれども、まだそういうことが話としても進んでいないので、まず私の提案は、これからについて、2023年後を考えたい。

その前提として、2つ目に、この活動は京都会議以前とか京都会議で終了するのではなく、その後もこれからの議論を続ける形でこの活発化チームの活動というのは継続したい、これが2つ目の提案です。将来が決まるまでは今の活発化チームの活動は継続したいと思います。

それから、先ほども触れられましたけれども、そのために、様子を見て、京都会議の報告会のような形で次のイベントをやるかどうか、3つ目として、次のイベント報告会というのを検討するというのを御提案したいと思います。

それから、ちょっと順不同で恐縮ですけれども、この活発化チームの名前が2023年に向けてということになっていますから、もし今後継続するということになれば、継続する内容によって、名前や運営方法も含めて、同時にといえますか、名前、運営方法も同時に検討したいと。

これらのことを今日御提案したいと思います。何か御意見、御質問等あればお願いしたいと思います。どれも、何に決めるということではないんですけれども、ほっておくと、名前からして、もうこれで、京都で終わりかと思われるかもしれませんが、IGF活動というのは日本の中で誰かが継続して推進していくべきだと思いますので、今まで活発化チームがそれをやってきたことを何らかの形で今後、どういう形になるかは別にして、何らかの形で継続するべきじゃないかということで今のような提案をさせていただきました。ぜひ御意見、御質問等お願いしたいと思います。いかがでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 口火を切らせていただきますが、たしか昨年だったか、前村さんと加藤さんメインになっていただいて、法人化するということに向けての調査をしていただいていたように記憶しています。結局、それで法人化して、発起人として募ると。要は、参加者、参加団体とか、そういった協賛してくれる団体というのを募るということだったんですが、結果的にそれが、時間的なタイムリミットというか、いろいろな障害があっとうまくいかなくて、総務省からの要請も受けたような形で、タスクフォースという形でできたと、それがまた別個にできたというふうにおおむね理解しています。もしかしたら細かい理解は間違っているかもしれませんが、おおむね理解しているんですけれども、そこでやはりタスクフォースということとの関連性というのも考えないといけないと思うんですが、そもそもこの活発化チームが日本におけるIGF活動についてどうしていきたいのかというところをやはり考えないといけないと思うんです。IGF応援隊でいいのか、そうじゃなくて、我々自身がナショナルIGFだというふうになっていくのかどうなのかということもあるし、そうじゃなくて、そのナショナルIGFかどうかという議論はさておいて、一旦置いて、いわゆるこういう情報交換とか、そういう場であると、研究の場であるということなのか、まずその立ち位置というか、そこを決めていく。活動を継続していくことには異議ありませんけれども、そのところがまず、立ち位置というか、そこが一番まず大事なかなと思います。

【加藤】 ありがとうございます。私から申し上げるのも僭越ですけれども、御指摘のとおりで、昨年、法人化、さらにこのIGFの活発化チームを強固にするといいますか、そういう議論がかなりあったんですが、それは今回、タスクフォースの立ち上げを見て、少しペンディングになっていたというのが背景にあったと思います。それから、その前提として、活発化チームの活動の目的や運営方法や、いろいろそういう議論がありました。今回、私の提案は、またそういうことをきちっと議論して、それで、もし継続するなら、京都会議以降も継続することを考えるべきだという提案ですので、本田さんの御指摘のとおりだと思います。

ほか御意見ありますでしょうか。

これは今日何か決めるということではなく、ただ、今日で終わりではなくて、京都会議で終わりではなくて、その後も今の形が継続して、さらに今後の形を決めていこうと、そういう御提案でございます。

もし特になければ、今日はそういうことで、これ、山崎さん、特に御異議はなかったということで、議事録をこうやって残した形でよろしいんでね。すみません、山崎さん、ちょっと……。本田さん、お願いします。

【本田】 異議はなかったというか、私以外は発言していないので、異議はないんですが、このことをどういうふうに考えるか、どういうふうに考えていくかということについては、提議があったので、今後、決め方を考えていくというほうがいいのかと思うんですけども。要するに、今日いらっしゃらない方ももちろん、欠席されている方もいらっしゃいますし。

【加藤】 そうですね、はい。

【本田】 ちょっとこれは時間をかけて、時間をかけてと言うと、またただらだらかかかってしまうと、それはよくないんですが、皆さんの合意を取りながら丁寧に進めていく、思いをまとめていくということの過程が必要かなと思うので、ちょっと継続的に考えていただきたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

いかがでしょうか、ほかの方。御意見、御質問等ございますか。

もしなければ、また思いつけばコメントを書き添えていただくとして、今日はこういうことが提案されたということで議事録は残させていただきたいと思います。コメント等、いつでも書き込みしていただければと思います。

田中先生、何かサイドイベントの関係でございますでしょうか。そうですね。SIGプレイベントの御案内と。

【田中】 お声がけいただきまして、ありがとうございます。活発化チームの皆様ぜひ御案内させていただければということで、少し御紹介をさせていただきます。今年に入ってから、スクール・オン・インターネット・ガバナンス(SIG)という形で、これまで日本で

開催されていなかったインターネットガバナンスに関する学びを少しでも多くの方にお届けできればという思いで、本学教授の立石が中心となってスクール・オン・インターネット・ガバナンスの公開講座を開催してまいりました。これの---せっかく今回、10月のIGF京都開催でたくさんの方が海外から来られますので、その中には各国でSIGを主催されている方もいらっしゃいますので、インターネットガバナンスを教えていらっしゃる方、それにIGFに参加されるユースの方などが集っていただくための機会として、今画面共有していただいているような形で、プライベートということで、SIGの集まりで、若者のためのSIGということでイベントを、SIGの活動の一環で、会場を京都コンピュータ学院の駅前ホールにて開催いたします。式典などを実施するときのホールで、大きな会場となっております。

プログラムといたしましては、チェンゲタイ事務局長に基調講演をいただきますほか、若手の皆様から発表していただいたり、各国のSIGの方から、全ての国というわけではなくて、代表的な---代表的と言ったらおかしいですね。一部御登壇いただいて、パネルディスカッションというような形で実施させていただきます。

詳しくはこちらのURL、またチャットに貼って、議事録にリンクを貼っておりますので、こちらから御覧いただいて、ぜひとも御関心ある方にお声がけいただければ幸いです。

【加藤】 ありがとうございます。

田中先生の今の御説明、何か御質問とか御意見ある方いらっしゃいますか。

私も十分これまで理解していなかったんですが、田中先生の今の御紹介、実はIGFとすごく深い関係があって、この活動自身、スクール・オン・インターネット・ガバナンスと申しますか、SIGは、IGFから出てきたダイナミックコアリションの1つなんです。御承知かと思いますが、ダイナミックコアリションというのは、IGFの組織そのものではないけれども、そこで心を同じにしたいろんな人たちが集まってコアリションをつくって、その活動を推進すると、そういう活動で、SIGというのもその1つであるということで、それを日本で今までやってこなかったのが、田中先生のところで、立石先生のところで手を挙げていただいて、今回日本でそれを実施していただくということで、我々のこの活発化チームのIGF活動に非常に密接に関係することであり、かつ、ユースの方々をこれからお招きしたりとか、IGFを広く知っていただくよいきっかけとなると思いますので、これはぜひ活発化チームの方々もこういうものに今後も参加していただいたり、いろんな方に呼びかけていただいたり、御自身も場合によってはスピーカーなり、そういう形で参加していただくなり、考えていただければなというのが私の個人的な意見でございます。

ほか何かございますでしょうか。このSIGプレイベントの件以外にも、何か話したいとか、こういうことがあるということがあれば、どなたか御披露いただきたいんですけど、いかがでしょうか。

それでは、ほかに項目がなければ、次回のこの活発化チームの会合をどうするかですけれども、山崎さん、次回については、私は10月2日の月曜日、3週間後というのが一応あるかなと思っていただんですけども、いかがでしょうかね。

【山崎】 山崎ですけれども、少し前、3週間ではなくて、4週間サイクルになったと思いましたが。

【加藤】 そうなんですね。ええ。

【山崎】 今回は、じゃあ、IGF前にやるために3週間間隔にするということですよ。

【加藤】 4週間目になるとIGFに重なってしまうので、もし最後に、参加できる方だけでも、最後の情報交換の場があったほうがいいかなと。すみません、言葉足らずで。そういう意味で10月2日かなと思っているんですけども、いかがでしょう。そういうふうに書いていただいたんですね。後の開催とするか。もうこれで、京都までもう、最後の連絡も含めて、情報交換の場としても必要ないということであれば、京都会議後の、直後の開催でもいいかと思うんですが、京都会議中の10月9日とか、9日は祭日なので10日とかはちょっと難しいと思うので、その次の週にするか、10月2日にするかですけれども、いかがですか。本田さん。

【本田】 開催前に一度やっておくということは、もしかしたら連絡もあるかもしれないので、いいと思うんですが、その参加者、参加される見通しがあるんでしょうかねということが気になって、皆さん出席、準備等でぎりぎりの、直前の中で、やるはいいけど、誰も来ないよということだとあれなので、おおむね出られるのであれば、ぜひやってもらえれば。

【加藤】 個別に確認したわけではないですし、恐らく総務省の方ももう本当に忙しいタイミングかと思いますので、参加していただける方が参加していただくという今までの前提で、私は事後よりも事前にひとつやっておいたほうがいいのかなと思うんですが、皆さんいかがですか。事後のほうがいいとおっしゃる、お考えの方があれば、ちょっとその旨コメントいただきたいんですが。

【本田】 すみません。2日にやるとして、10月はもう一回やるという感じですか。それとも、11月。

【加藤】 それも決めておきましょうか。それも決めておきましょうか。

【本田】 そのほうがいいと思いますね。

【加藤】 ええ。そういう意味でいうと、10月2日の後、1、2、3、4週間目となると、10月30日ですね。10月30日でいかがでしょうか。京都会議後2週間空きますけれども、恐らく京都会議で皆さん顔を合わせたりする方も多し、直後に集まっても反省会的なことしかないので、10月30日頃に、さあ、そろそろ、今後どうしようかということも含めて会合を行うというのはいかがでしょう。

【河内】 私はちょっとその日、時間が遅れて参加になる可能性もゼロじゃないですけども、御参考までです。

【加藤】 10月30日ですか。

【河内】 はい。

【加藤】 はい、分かりました。可能な限り参加していただくという前提でお願いします。なかなか皆さんの時間の調整が難しいので、もう出席者だけで無理やり決めることになりますけれども、もし大きな異論がなければ、10月2日の月曜日と4週間後の10月30日の月曜日ということで、2回を決定しておきたいと思います。よろしいですか。

【本田】 すみません。4週間というのはいちよつと私は聞いていなかったんですけど、4週間めどというのはいちよつとそういう声があったのは聞いていなかったんですけど、そうすると、大体月末にやる、月末の月曜日にやるふうな感じになりますかね、4週間というの。

【加藤】 それはちよつと、本当に4週間でやってきていたので、今度、3週間で10月2日やりますので、月末とかというのはいちよつと決まっています。今まで見ますと、割と月初めになっていたりとか、8月は21日でしたし、その前も何かで、割と近いところで2回やりました。そのときも、日本のイベントの準備のタイミングがあるので2週間でやったり、そういうので、原則、4週間ごとに、ひと月に1回程度にしましょうということを決めたんですが、いろいろなイベントとの関係で若干変更があったというのが過去の例です。ですから、月初めとか、そういうことは決まっています。

【本田】　　そういうことですね。分かりました。3週間だと、少ないタイミングになって、頻繁に起きることになってしまうので、4週間ごとと、おおむね4週間というところで。

【加藤】　　そういうことで。

【本田】　　承知しました。

【加藤】　　ありがとうございます。

それでは、日程についてはそういうことにさせていただくとして、何かほかにございますか。山崎さん、この下に何かまだアジェンダ項目ありましたっけ。これで終わりですよ。

【山崎】　　以上が見えているとおり。

【加藤】　　そうですね。

【山崎】　　ない場合もあるんですよ。以上が見えていますので、もうこれ以上はないんですが。

【加藤】　　ないですね。

【山崎】　　Todoは特にはないですね。

【加藤】　　今日は特にというのはなかったと思います。

最後に一言、何かコメントある方いらっしゃいますか。

もしなければ、今日もお集まりいただき、ありがとうございました。別の会合で参加できなかった方もいらっしゃいますけれども、ぜひ京都に向けていろいろ、メーリングリストでも情報共有しながら、京都成功に進めていただくようによろしく願います。今日はありがとうございました。では、これで終了とさせていただきます。